

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月19日実施)	総合評価 (3月4日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○小中高一貫性のある教科指導を中心とした教育課程の編成を行う。 ・「みどりの学び」の充実(教育課程編成表と日課表の改定)	○教科の視点に立った小中高一貫性のある教科指導についての改善や検証を図る。	①教科会を10教科(G)設定し、各学部の指導内容の共有を行う。 ②教育課程チームを中心に、昨年度作成した年間指導計画を運用し、書式の検討を推進する。 ③教育課程編成表について知り、教科等を合わせた指導について現在の編成表と実際の授業について検証する。	①教科会を10教科(G)設定し、各学部の指導内容の共有ができたか。 ②-1年間指導計画の新書式を運用することができたか。 ②-2年間指導計画を運用し、書式の検討を勧めることができたか。 ③-1教育課程編成表について全教員が知る事ができたか。 ③-2教科等合わせた指導について授業を検証することができたか。	①各教科会で、各学部10教科の取り組みを共有し、系統性を持たせるための課題や改善策をまとめた。学部毎に取り組んでいたものを知ること、小中高を通してつきたい力や内容を確認することができた。 ②各学部で、新書式を運用したり、振り返りなどの書式を追加したりして取り組んだ。 ③各学部で教育課程編成表を学部会で確認・共有、現状の教育実践と検証し課題を話し合うことで、次年度の教育課程編成表や日課表の改定等に取り組んだ。	①教科会で提案されたアイデアから、指導内容の共有、他学部の指導案や教材等の連携を進めていくと共に、施設や物品の確認、整理を連携しながら進めていく。 ②年間を通しての新書式で実践を行った課題等の振り返りを年度末に行いまとめる。 ③次年度当初に改定した教育課程編成表のポイントを各学部で共有して、教育実践に生かしていく。	①学部横断のメンバーでの検討や年間指導計画の改善により系統性のある学習活動の推進に向かっている。続けていくことで「みどりの学び」が確立してくる。 ②教科等を合わせた指導の検証や学習のねらいの明確化など組織的に取り組んでいる。 ③引き続き教育課程編成表のポイントを各学部で共有して、学びの足跡を創り教育実践に生かしてほしい。	①教科を継続して実施し一貫性のある指導内容について協議することが課題である。 ②新書式で年間指導計画を作成し誰でも運用できるようにすることが課題である。 ③教科等を合わせた指導について、内容の整理を進めることができた。教育課程編成に活かしたい。	①教科会において1~2年目で行った各教科の指導内容を共有し、本校の教科指導について年間指導計画の見直しを行う。 ②新書式で計画を作成し単元や内容の検証を行いつつ活用する。 ③新教育課程編成表をもとに、各学部が情報共有し、小中高の一貫性あるよりよい教科学習に取り組んでいく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○アセスメントに基づく「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両面から推進する。 ・自立活動の視点を踏まえての実践の推進	○自立活動の視点でアセスメントを行い、個々の育てたい力を明確にする。 ○各学部の実践等を活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で授業内容を整理し、授業改善を図る。	①自立活動の視点でアセスメントを実施し指導に生かす。 ②授業改善の視点で授業を見合いながら、ねらいや活動内容、児童生徒の姿などについて、授業に関わるメンバーで対話や意見交換を行う。	①-1自立活動の視点を全教員で確認することができたか。 ①-2自立活動の視点でアセスメントが実施され、記録されたか。 ②-1「個別最適な学び」と「協働的な学び」が両立する視点を単元の評価や学習計画に取り入れることができたか。	①自立活動の内容6区分27項目について、学部の全職員で共有した。また、27項目について、他県の具体的かつ詳細な例示を指導に生かすことができた。 ②-1「授業づくりの基礎基本」に関する研修を実施し、共有することができた。授業リフレクションでは、意見交換や指導略案作成への意識が広がった。 ②-21月に研修を実施し、2つの視点についての理解を学校全体で深める機会を設け、今後の授業改善へ向けた基盤の形成が進んだ。	①学部の全職員で共有した詳細な自立活動の内容を活用して、引き続きアセスメントし、指導に生かしていく。 ②-1リフレクションにおける意見交換が十分に行われぬ場面もあるため、取り組みについての分かりやすい共有方法や流れの改善が必要。 ②-2研修で得た視点を日常の授業改善に具体的に反映させる段階には至っていないため、来年度以降継続して取り組む。	①自立活動は全ての学習に関わる。児童・生徒の意思や意識も含め実態把握を基に指導・支援を進めたい。 ②「授業づくりの基礎基本」に関する研修を実施し、共有することができた。授業リフレクションでは、意見交換や指導略案作成への意識が広がったのは大きな成果である。今後も継続して取り組んで欲しい。	①-1自立活動について理解を高めた。 ①-2自立活動の視点でアセスメントを丁寧に記録した。 ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の2つの視点についての理解を学校全体で深める機会を設け、今後の授業改善へ向けた基盤の形成が進んだ。 ②「育てたい力から「伝える」をキーワードとし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の2つの視点についてさらに深い学びに繋げていく。	
3	進路指導・支援	○キャリア教育の視点に立ち、発達段階に応じた進路指導・支援を充実させる。 ・「キャリア教育の視点に立った育てたい	○キャリア教育の視点に立ち、発達段階に応じた育てたい力を整理し共通確認する。	①-1「キャリア教育の視点に立った育てたい力」を検討する。 ①-2高等部の校内実習について、内容等検討し、整理する。	①-1「キャリア教育の視点に立った育てたい力」を検討できたか。 ①-2高等部の校内実習について、内容等検討し、整理できたか。	①-1「キャリア教育の視点に立った育てたい力」を検討した。 ①-210月実施の後期校内実習でも、全学年ともに生徒の実態に合わせて、期間内で取り組める内容や量で受注作	①-13月の職員会議にて、全教職員に周知、さらに内容の改善・活用につなげていきたい。 ①-2今後も、進路担当と協働しながら、生徒の実情に合わせて、受注作業と校内	①キャリア教育の視点に立った「育てたい力」を全教職員に周知したことは成果である。それを次の研究と繋げていってほしい。 ①-3新書式を作成して、後期校内実習では1年生を含めて全学年	①職員会議にて、全教職員に周知、さらに内容の改善・活用繋げる。また、進路担当と協力しながら校内実習を進めていく。 ①「キャリア教育の視点に立った育てたい力」を全校に周知する。 ・評価基準に沿って統一した評価ができるよう評価者の資質向上	

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月19日実施)	総合評価(3月4日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
	力」の作成と活用		①-3 高等部校内実習の評価基準の再検討を行う。 ②キャリア教育や進路に関する教職員研修を実施する。	①-3 校内実習の評価基準の再検討できたか。 ②キャリア教育や進路に関する教職員研修を実施できたか。	業を調整しながら行った。 ①-3 新書式を作成して、後期校内実習では1年生を含めて全学年で使用し、評価に取り組み活用を進めた。 ②進路支援担当から、3月に教員研修として、みどりの進路に関する報告会を行う予定。夏季休業中に地域連携学習会を実施した。	資源を使った作業の調整を進めていく。 ①-3 次年度は改良した新書式を継続して使用し、校内実習や現場実習、進路指導の充実を図る。 ②次年度は、教職員の進路に関するニーズにあった教職員研修を、参加しやすい日程の検討や周知の仕方等工夫していく。	で使用できた。取り組みをブラッシュアップしてより活用できるものを作り上げる。 ② 教職員の進路に関するニーズにあった教職員の研修について、参加しやすい日程の検討や周知の仕方等工夫していく。	② 夏季休業中に地域連携学習会を実施した。また、進路支援担当が教員研修として、報告会を行った。	② ニーズに合った研修キャリア教育や進路に関する教職員研修を実施する。	
4	地域等との協働	○センター的機能を発揮し、地域の支援教育向上に努める。 ・地域への教育情報の発信を充実させる。 ○交流及び共同学習、地域での活動を通して相互理解を深める。 ・双方向での学校間交流及び地域交流の充実	○地域への教育情報の発信について、引き続き、改善や充実を図る。 ○互いの学びとなる双方向での交流の視点で現在の交流学习等の形態を見直す。	①教育情報を地域に複数の手段で発信するひとつとして、ホームページに教材のページを掲載する。そのためのCMS操作研修を行う。 ②学校間交流を継続しながら、双方向での学校間交流を計画する。	①-1 CMS操作研修を実施できたか ①-2 ホームページで教材の紹介ができたか。 ②双方向での学校間交流を試み検証ができたか。	①-1 ホームページ作成にあたり、CMS操作研修で使用した資料を参考にした。 ①-2 ホームページに39の教材を掲載することができた。 ②互いの学習や取り組み内容を踏まえ、作品交流や交流学习の内容を相談し、学校間交流を行うことができた。	①必要に応じて、掲載する教材の追加をしていく。 ②学校間で交流についての確認後、担当者同士での打合せや計画をするにあたり、1学期から担当者間でやりとりが行えるよう進められるよう計画していく。	① 地域の教育力向上のため、引き続き様々な発信や取り組みと合わせて活用できるホームページにするための検討が必要である。 ② 交流及び共同学習や地域での学習活動は、より推進をしていきたい。	①-1 教材紹介のHPが作成できた。 ①-2 新たな方法を模索し、周知ができた。 ② 双方向での交流を拡げることができた。 ②-3 公園等複数の場で活動し、行事や展示にも参加した。	①「みどり支援学校のHPに支援に係る情報がある」ことを広く周知する。 ・地域の教職員や事業所などに向けた公開講座を開催する。 ② 双方向での学校間交流を検討を深めながら、地域での活動の発信と活動を継続する。
5	学校管理 学校運営	○災害を想定した防災対策を進める。 ・現実的な防災教育と組織的な避難体制の構築と実現 ○安心安全な学校管理・学校運営の体制の確立を推進する。 ・各種マニュアルの改定と運用、会計システムの構築と運用 ○働き方改革の促進と意識の醸成	○従来から行ってきた防災訓練や防災教育を現実的想定のもと見直す。 ○給食、保健指導、スクールバスについてマニュアル改定や会計システムを見直す。 ○働きやすい職場を目指し、ICT等を活用した業務の効率化の構築	①-1 緊急参集(福祉避難所)マニュアルを見直しながら防災倉庫・物品等について研修会を実施する。 ②それぞれのチームで、洗い出された課題点を見直し、業務内容・マニュアル等を検討実証する。 ③Teamsを活用し情報の整理と業務の効率化を図る。	①-1 緊急参集(福祉避難所)マニュアルを見直しながら防災倉庫・物品等について研修会を実施できたか。 ② 洗い出された課題点を見直し、業務内容・マニュアル等を検討実証できたか。 ③Teamsを活用し情報の整理と業務の効率化を図ることができたか。	①-1 初転任者を対象に、研修会を行った。また、福祉避難所運営マニュアルの見直し、更新を行った。 ①-2 新栄高校との合同避難訓練を10/31に実施し、迅速かつ安全な避難について進めることができた。 ①-3 みどり防災デーでの防災学習について、全体で体験ブースを設置し、各学部・学年の体験活動を行った。 ①-4 11~12月にかけて、各学部及び分教室ごとに引き渡し訓練を実施した。 ②学校徴収金システムを見直し、私費会計事務への移行を進めることができた。 ③来年度に向けた改訂を完了し、Googleドライブについては、4つのドライブを1つに統合することができた。	①-1 福祉避難所運営マニュアルについては横浜市とも連携を図りながら職員への周知していく。 ①-2 消防署と連携しながら、避難困難者への対応策を再度検討する。 ①-3 地域、保護者の方の参画に向け、別日開催など、活動時間を十分確保できるよう次年度以降計画していく。 ①-4 次年度以降、学校全体の動きの確認や学部ごとの動線の整理をしていく。 ②学校徴収金スケジュールの改善に伴う会計事務処理の事故防止につなげていく。 ③各フォルダについては、各学部の教材運用が決まり次第、フォルダ構成を策定し整理を進めていく。	① 防災への具体的な取組みは進み始めている。具体的な取組みを図っているので継続して推進していきたい。 ②個人情報・会計処理についてより明確で適切な処理が必要である。 ③業務の効率化に当たるまではっていないので一つ一つ整理し働き方改革に繋げてほしい。	①-1 想定を変えるなどし、対応力を広げる取組みを行った。 ①-2 避難ルートのマニュアル等を作成できた。 ①-3 計画とシミュレーションを行えた。実施が課題。 ②各種マニュアルの見直しや業務の改善等を行った。醸成を図りたい。 ③ 来年度に向けた改訂を完了し、Googleドライブについては、4つのドライブを1つに統合することができた。	① 緊急参集(福祉避難所)マニュアルに基づいた研修会を実施する。 ①-2 様々な想定で避難訓練を継続実施。地域、保護者の方も含めたみどり防災デーを計画立案する。 ①-3 シェイクアウト訓練や引き渡し訓練を行いマニュアルの見直しをする。 ② 課題点を見直し、業務内容・マニュアル等を検討実証する。 ③ 引き続きTeamsと統合型校務支援システムを活用し、情報の整理と業務の効率化を図る。